

平成27年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文責・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島 洋己 (浜松市立高校教諭)

平成27年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選は5月23日、池新田高校体育館等で開幕する。男女とも地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、4ブロックに分かれたトーナメントのあと各ブロック1位校による決勝リーグが5月30日、31日に静岡市北部体育館で行われる。男女とも上位2校が7月28日に京都府京都市（ハンナリーズアリーナ、島津アリーナ）で開幕する全国総体へ、上位3校が6月20、21日に静岡県浜松市・浜松アリーナで行われる東海総体への出場権を獲得する。

【男子】

ここ数年続いた藤枝明誠や沼津中央の独走時代が終わり、県新人上位4チームが並ぶ群雄割拠の時代に突入したと言える。その中でも優勝候補の本命は県新人優勝、東海新人3位の**飛龍**。多彩な攻めが魅力のエース・**安部紘貴**（3年）は1対1からのドライブに絶対的な自信を持つ。キャプテン**小宮光紀**（3年）はディフェンスの要としてチームを支える。中盤の**関屋風画**（3年）から長身193cmの中国人留学生・**馮俊凱**（2年）にボールがつながる場面が多く見られるようになれば8年ぶりの優勝も現実味を帯びてくる。

対抗は県新人準優勝の**浜松学院**。併設中学が平成25年に静岡全中で優勝した時のメンバーが主力となり、17年ぶりの優勝が視界に入ってきた。191cmの大型センター**田中旭**（2年）と**横川真那斗**（2年）の静岡全中大会優秀選手コンビを中心に司令塔・**伊藤颯太**（2年）の華麗なパスワークで全国総体を引き寄せることが出来るか。特に横川は県新人準決勝で3Pシュート6本を決めるなど躊躇なく放たれるロングシュートのセンスは天下一品。大物新人・**ダシルバヒサシ**（1年）も加わりさらに全体の戦力も厚みが増した。下級生中心の若いチームではあるが全国の檜舞台で培ってきた経験値を生かすことが出来るか注目である。

県総体3連覇中の**藤枝明誠**もこのままでは終われない。2月に三上淳監督(当時)が急逝、現在は三上氏が札幌創成高校監督時代の愛弟子・江口理沙監督が采配をふるう。エース・角野が抜けて得点源が心配されるが、シューターの**草野佑太**（3年）を軸に、春季強化遠征メンバーにも選ばれた**坂下郁弥**、**林大真**（ともに3年）、**富田一成**（2年）の中盤勢がセンター192cmの中国人留学生・**潘広晨**（3年）にどれだけボールをつなげられるかが勝負の鍵を握る。県内初の女性監督が男子チームを率いてのインターハイ出場なるかにも注目したい。

東部予選決勝で飛龍に惜敗した**沼津中央**も優勝候補の一角として外せない。U-18日本代表候補にも選ばれたエース・**今村拓夢**（3年）は抜群の跳躍力を誇り攻守の要としてチームを支える。昨年からレギュラーで活躍する**石丸彪**（3年）、引退した藤原の後継者として白羽の矢が立った**小花巧**（3年）、司令塔・**荻野賢雅**（3年）、3月の国内遠征メンバーに選ばれた**宮澤亮**（2年）に加え、新加入のセネガル人留学生・**サンブーアンドレ**（1年）は県内最高身長200cm。この高さで沼津中央のモットーである「走り勝つバスケット」が有機的に機能すれば3年ぶりの全国総体出場、さらには4年ぶりの優勝が見えてくる。決勝リーグまで勝ち上がった場合、初戦での対戦が予想される東部決勝の再戦となる飛龍戦がポイントとなる。

この4強を猛迫するのが、西部予選準優勝の**浜松開誠館**と中部予選準優勝の**静岡学園**、そして県新人公立高校男子唯一8強、東部予選も3位に食い込んだ**伊豆中央**。浜松開誠館、静岡学園、ともに国内遠征メンバーである**二村響**（浜松開誠館2年）、**高橋佳希**（静岡学園3年）を軸とする攻撃的バスケットを得意とするチーム。二村、高橋に加え、伊豆中央のエース・**井村大我**（2年）も全中出場経験があり、大舞台での試合経験が豊富なのも強みである。同じく県新人8強の星陵、県内日本人最高身長192cm**越後航平**（3年）を擁する**加藤学園**も侮れない。

【女子】

優勝候補筆頭・県新人覇者の**常葉学園**の優位は揺るがない。現在県内3大会（総体・選抜・新人）5連覇中。戦力的にも充実期にあり、チームのスコアラー（得点源）・**篠宮杏奈**、ディフェンスの要・**見崎南美**、ゴール下で果敢にシュートを放つ**河合夏海**、抜群のドライブ力を持つ・**柴美佑**（すべて3年）、2年の**伊東ひかる**、**伊東かおる**の姉妹、**高橋夏瑠**、そして新加入の長身センター**野本陽香**（1年）と他チームのついている隙が見当たらない。エース篠宮はケガとの戦いとなるが、2年連続12回目の優勝、5年連続21回目の全国総体出場を狙う常勝チームに死角は見当たらない。天下の宝刀とも言える「ステイローからの速攻」の切れ味はすでに全国レベルである。

対抗はその常葉学園と中部予選決勝で激闘を繰り広げた駿河総合と、西部予選14連覇を遂げた浜松開誠館。**駿河総合**は昨年エース・遠藤が抜けただけでレギュラーメンバーは昨年とほぼ変わらない。司令塔・**西村茉優**（2年）を始め、中盤の**浜辺詞織**、**瀧本菜々子**（ともに3年）は昨年から実戦を多く経験し上積みも見込める。センター陣は172cmの**池ヶ谷優香**（3年）、178cm**大串梨沙**（3年）、同じく178cmで今春トップエンデバーにも招集された**加藤陽**（2年）など高さでは他の追随を許さない。その中でチームの信条である「考えて創り出すバスケット」を十分に展開できるか注目したい。常葉、浜松開誠館に競り勝って、2年連続の全国総体出場を初優勝で飾りたいところである。

県新人準優勝の**浜松開誠館**は平成24年の埼玉全中でベスト8に輝いた時の主力が3年生になり、こちらも戦力的には整っている。3月の少年女子選抜の遠征メンバーに選ばれた**小幡美乃里**、**平野未来**、**山口史乃**（すべて3年）、**陽本麻優**（2年）を中心に、西部地区としては平成2年の西遠女子以来、25年ぶり、まさに四半世紀ぶりの県総体制覇を狙う。県新人決勝では王者・常葉学園を第4Q途中までリードし、土俵際まで追い詰めた。チーム全体としてリバウンド、ルーズボールなど「球際」にも抜群の強さを発揮している。浜松開誠館初の優勝と7年ぶりの全国総体出場はセンター平野が173cmの長身を生かしリバウンドの支配が出来るかにもかかっている。

この3強を追うのが、西部予選準優勝を果たし第4シードに食い込んだ**浜松海の星**と県新人4位の実績を誇る西部予選3位・浜松学院の西部勢。**浜松海の星**は**鈴木朋香**、**飯島渚**（ともに3年）、**名倉百香**（2年）の170cm超の長身センター陣3人を抱え、ガード陣も抜群のシュート成功率を誇る。**浜松学院**は県新人で強豪・市立沼津、藤枝順心を破り初の4強入りを果たし、シューター**添田南葉**（2年）も安定したシュート成功率を誇る。勝負所でインサイドにボールを集め、スピードあるセンター・**古野実希**（2年）と県内女子最高身長180cmの**新村莉子**（3年）を軸にゴール下から得点を量産していきたい。

この2チームに加え、一昨年全国総体ベスト8で今回の東部予選も制覇した**市立沼津**や県新人ベスト8の3校、強靱的なフィジカルを誇るエース・**柴田江マ**（3年）を擁する**藤枝順心**、司令塔・**瀬崎真由**（3年）が得点源の**浜松市立**、スピードあるセンター・**小林梨花**（3年）、大ケガから復帰した**夏目唯衣**（3年）を筆頭に選手層の厚い**沼津中央**も虎視眈々と地元開催の東海総体出場を狙っている。